

地域活動を応援する

地域のわ通信

R6年9月
NO.90

過去の「地域のわ通信」は
こちらをご覧ください。



たのしいコトをみんなで作る 「コトコト商店(仮)」

神奈川県地域づくり大学校（*以下、地域大）は、今年で10周年を迎えます。卒業生は約220人に上り、地域で活動を始めたり、自治会町内会の担い手になったり、区内のあちこちで活躍中です。

今回は、その活動の中から、8期卒業生・稲葉志野さんが六角橋に実現させた活動「コトコト商店(仮)」を紹介します。取組の内容や経緯について、稲葉さんに聞きました。

（*）神奈川県地域づくり大学校
地域の新たなつながりを創り出し、実現したい活動をカタチにしていこう連続講座。

「コトコト商店(仮)」ってどんなところ？



写真：「コトコト商店(仮)」の様子。
古本を中心におしゃれな雑貨などが展示販売され、喫茶もあります。出店者同士の交流や地域の方との出会いの場にもなっています。

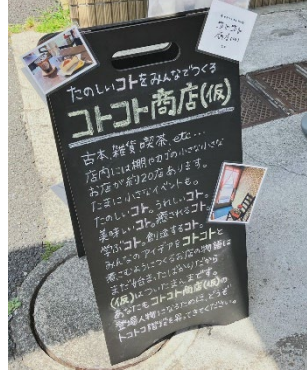
稲葉さん：店内は10人ほどが入るスペースで、棚やかごに、古本、雑貨、喫茶など、小さなお店が約20店あります。たまに、小さなイベントも開催しています。

たのしいコト、美味しいコト、癒されるコト、学ぶコトなど、みんなのアイデアをコトコトと煮込むように作っていく物語はまだ始まったばかりです。だから(仮)はついたままなのです。

「コトコト商店(仮)」は、お客さんとしても、イベントの企画者としても楽しめる、決まったカタチがない、みんなで作っていく地域の居場所です。

インスタグラム検索はこちら

@kotokoto_showten



はじまりのきっかけは地域大。

仲間の一言が思わぬ展開に！ 人がつながり合い生まれた「コトコト商店(仮)」



写真：「地域大・第8期卒業生」の稲葉志野さん

私は、横浜を中心に真さんスタイルの気まぐれ古本屋「ママゴト商店」として、ブックイベントに参加したり、本にまつわるグッズやZINE（※）を作ったりしています。六角橋地域ケアプラザの一角で、まちライブラリー@横浜キノコ文庫も運営しています。（※）個人や小さなグループで作られる雑誌のような出版物

これまでの活動をより広く展開することを学ぶため、2022年に第8期「地域大」を受講しました。その中で、これからの地域で実現したいアクションプランに「コトコト商店(仮)」のベースとなる“本のある居場所づくり”を描きました。

こだわったところは、本のある居場所に入出入する人たちのアイデアで、どんどん発展していくシェア本屋さんであること。これまでの活動の集大成として、自由な形で活動したい、利益も出したい、という思いから店舗営業のカタチを目指したことです。



チャンスは思いがけず、地域大の仲間の声かけでやってきました！



写真：「しえあひるすヨコハマ」の外観と期間限定のお店の様子

2024年2月、地域大の同期（しえあひるすヨコハマ・オーナー:世古さん）から「1か月の期間限定だけど、志野さんのアクションプランを試せるスペースがあるけど、使ってみない？」という提案がありました。これまでの活動で出会った10人ほどで、古本を中心とした小さなお店を運営する体験をさせてもらいました。

お店の運営のルールづくりからレイアウトまで出店者みんなで考えました。困ったことがあれば意見を出し合い、改善しながら前に進んだ貴重な時間でした。

その時に一緒に活動した仲間の一人が、「小さな焼き菓子の店 びすけのみどりさん。みどりさんと「しえあひるすヨコハマ」での活動を振り返る中、地域で継続的な活動ができないかと意気投合。そこで、みどりさんは、彼女がお菓子工房として使っていた場所（六角橋）で、常設の店舗運営を考えました。私も、お店の運営の仕組みや提案、また運営スタッフとして参画し、2024年6月1日、店舗「コトコト商店(仮)」という形で、アクションプランの実現が叶いました。



写真：「コトコト商店(仮)」の看板

『コトコト商店(仮)』の概要

場所	神奈川県六角橋2-2-20 佐藤ビル 2F (白楽駅徒歩8分) 市営バス36・82・88系統 神奈川大学入口下車
活動日	①10:00~13:30 14:30~18:00 *月・ほか不定休 ②不定期のイベント開催
活動内容	・常設シェア棚での古本、雑貨の展示販売 ・喫茶 ・単発イベント開催 (こんなのできるよ~という方お問合せください) ※インテリア・収納、お茶の入れ方、お金のコト、栄養学、占い、防災、デジタルイラスト、メイク、カラー診断など
問合せ先	■Instagram「コトコト商店(仮)」DM



コトコト商店(仮)で1日だけのお店を開きませんか？

志野、新刊本、ZINE、雑誌、洋服メイクセミナーなど

まだはじまったばかりですが、大きなことをやるのではなく、できる範囲で小さなイベントを重ねることで、地域の人がゆるやかにつながれる場所になればと思っています。

